

進学塾『早稲田アカデミー』2020年・新企業広告 AI時代を生きる子どもたちに必要な学びを提言

メッセージは「ぼくたちは、AIにならない。AIは、ぼくたちになれない。」

受験シーズン本番を控えた1月から広告展開開始

小中高校生を対象とした進学塾を運営する株式会社早稲田アカデミー（本社：東京都豊島区、代表取締役社長：古田信也）は、「ぼくたちは、AIにならない。AIは、ぼくたちになれない。」をキーメッセージとした企業広告を、校庭篇、教室篇、通学篇の3シリーズで、2020年1月から新聞や雑誌を中心に展開します。

同社は、昨年8月にコーポレートマーク・ロゴタイプを一新しました。本企業広告は、「子どもたちがつくる未来」への想いを発信するために企画されたものです。

AI（人工知能）の進化によって、私たちの暮らしはどんどん豊かになっています。その一方で、将来、AIに自分の仕事が奪われるかもしれない、といった不安を抱えている人もいます。環境が大きく変化していくなか、AIと共に新たな未来を切り開くことのできる人材を育てることが求められています。同社は、そのために“人間ならではの感性、情感、想像力”を育む本質的な学びが必要であると考え、今回の企業広告において表現しました。

■企業広告のコンセプト

早稲田アカデミーはこの広告を通じて、これからの時代に求められるのは「感性を育む学び」だと伝えています。

同社は、子どもたちにさまざまな学びの機会を提供することで、新しい発想や広い視野で未来を切り開いていく人を育むことを広く社会に宣言。

ビジュアルでは、俯瞰で捉えた生徒群と何かに気付いた生徒とのコントラストを鮮やかに表現。メッセージ性の高い広告としています。

ぼくたちは、AIにならない。
AIは、ぼくたちになれない。

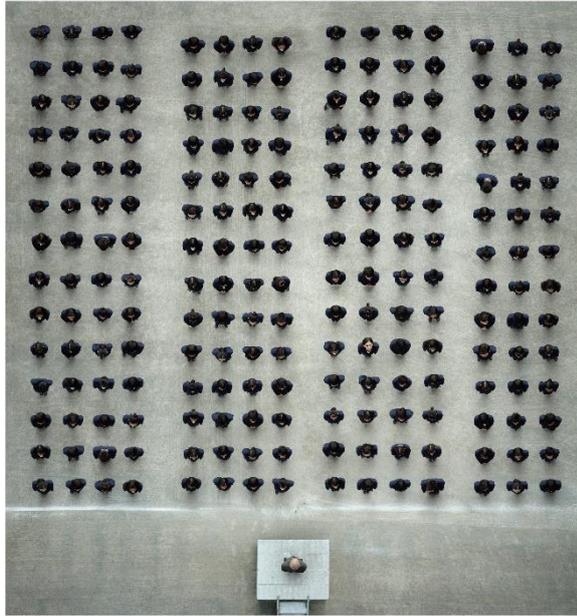


AIが進化すれば、プログラミングは機能を必要となくなるのでしょうか。たしかにAIは、形の中を変えていくでしょう。AIは、過去の膨大な情報から学習し、いともカンタンに正確な答えまでも導きだしてくれます。けれど、プログラミングは、何もない白紙の状態から自らアイデアを思いついていきます。感情を揺つからこそ、自由な発想や想像力で、夢に向かって進むのです。（やしいから努力する。楽しいからやり続ける。まだ起きていないことにわくわくする……。すべてプログラミングの原動力。そんな感性を育む本質的な学びを大切にしたい。私たち早稲田アカデミーは、そう考えています。

 早稲田アカデミー

「ぼくたちは、AIにならない。」（教室篇）

ぼくたちは、AIにならない。
AIは、ぼくたちになれない。



膨大なデータを記憶する、分析して正解を導き出す、といったことは、AIがやるがとやってくる世の中になりました。その速度も、ニンゲンがかなうものではありません。だからこそ、これからの時代にほんとうに必要な学びを、それは、新しい発想や広い視野、自分らしい考えかたなど、ニンゲンならではの感性を育む学び。夢中になる、面白いと思う、くやしいと感じる、うれしくてたまらない……。そんな感性まで刺激するような本質的な学びを、よりいっそう大切にしたい。私たち早稲田アカデミーは、そう考えています。



ぼくたちは、AIにならない。
AIは、ぼくたちになれない。



膨大なデータを記憶する、分析して正解を導き出す、といったことは、AIがやるがとやってくる世の中になりました。その速度も、ニンゲンがかなうものではありません。だからこそ、これからの時代にほんとうに必要な学びを、それは、新しい発想や広い視野、自分らしい考えかたなど、ニンゲンならではの感性を育む学び。夢中になる、面白いと思う、くやしいと感じる、うれしくてたまらない……。そんな感性まで刺激するような本質的な学びを、よりいっそう大切にしたい。私たち早稲田アカデミーは、そう考えています。



「ぼくたちは、AI にならない。」(校庭篇)

「ぼくたちは、AI にならない。」(通学篇)

※内容が変更になる可能性があります

■ 広告メッセージ

(教室篇)

ぼくたちは、AI にならない。
AI は、ぼくたちになれない。

AI が進化すれば、ニンゲンは勉強をする必要がなくなるのでしょうか。

たしかに AI は、世の中を変えていくでしょう。

AI は、過去の膨大な情報から学習し、いともカンタンに正確な答えまでも導きだしてくれます。

けれど、ニンゲンは、何も無い白紙の状態から創り出すチカラを持っています。

感情を持つからこそ、自由な発想や想像力で、夢に向かって進むのです。

くやしいから努力する、楽しいからやり続ける、

まだ起きていないことにわくわくする……。すべてニンゲンの原動力。

そんな感性を育む本質的な学びを大切にしたい。

私たち早稲田アカデミーは、そう考えています。

未来への想い・願い・期待をこめて、早稲田アカデミーのロゴが変わりました。

早稲田アカデミー

(校庭篇)

ぼくたちは、AI にならない。

AI は、ぼくたちになれない。

膨大なデータを記憶する、分析して正解を導き出す、といったことは、

AI がかかるがとやってくれる世の中になりました。

その精度も速度も、ニンゲンがかなうものではありません。

だからこそ、これからの時代にほんとうに必要な学びを。

それは、新しい発想や広い視野、自分らしい考えかたなど、

ニンゲンならではの感性を育む学び。

夢中になる、面白いと思う、くやしいと感じる、うれしくてたまらない……、

そんな感受性まで刺激するような本質的な学びを、よりいっそう大切にしたい。

私たち早稲田アカデミーは、そう考えています。

未来への想い・願い・期待をこめて、早稲田アカデミーのロゴが変わりました。

早稲田アカデミー

■企業広告詳細

<新聞>

- ・日本経済新聞（東京本社版、朝刊）
掲載日：1月8日（水） 校庭篇
- ・読売新聞（東京本社セット版、朝刊）
掲載日：1月11日（土） 教室篇

<新幹線車内誌・機内誌>

- ・Wedge（東海道・山陽新幹線グリーン車・車内誌）
掲載日：2月20日（木） 校庭篇
- ・翼の王国（ANA 国内／国際線・機内誌）
掲載日：3月1日（日） 通学篇
- ・SKYWARD（JAL 国内線・機内誌）
掲載日：3月1日（日） 教室篇

■広告モデルプロフィール：中島セナ

2006 年生まれ、東京出身。

2017 年には雑誌「COMMERCIAL PHOTO」や「POPEYE」の表紙で注目を集め、ファッション雑誌のモデルを中心に活躍。

2018 年には映画「クソ野郎と美しき世界」に出演し女優デビュー。

2019 年には映画「ウィーアーリトルゾンビーズ」に出演。



■広告制作スタッフ

クリエイティブディレクター/コピーライター：三井明子

アートディレクター：増田総成

デザイナー：中戸健司、大久保佳津江

カメラマン：村松賢一

レタッチャー：吉川たけし

スタイリスト：中村薫

ヘアメイク：橋房図

ロケ地コーディネーター：全大殖

プロップスタイリスト：渡辺太

キャスティング：村上高志、定方理紗、原木孝子

クリエイティブプロデューサー：林美将、鯉住彩加

プロデューサー：杉本哲也、日色裕樹

企画・制作：ADK マーケティング・ソリューションズ、ADK クリエイティブ・ワン、
CHERRY、クリエイターズグループ Mac

■早稲田アカデミーとは

早稲田アカデミーは、首都圏に校舎を展開する小学生・中学生・高校生を対象とした進学塾です。1975年の創業以来一貫して、「本気でやる子を育てる」という教育理念のもと、第一志望校合格を目指す生徒たちをサポートしています。

受験を通じて得られるものは、学力だけではありません。「自ら考え、学び、解決する」という、一生の財産となる力も身につくのです。早稲田アカデミーはこれからも、「志望校合格」を追求することで、未来に向かう子どもたちの成長を支えてまいります。

【運営会社】

法人名：株式会社早稲田アカデミー

所在地：〒171-0022 東京都豊島区南池袋一丁目 16 番 15 号 ダイアゲート池袋 9 階

設立：1974 年 11 月 (1975 年 7 月)

代表者：代表取締役社長 古田 信也

事業内容：小学生・中学生・高校生を対象とする進学塾の経営等

URL：<https://www.waseda-ac.co.jp/>

〈本件に関する報道関係様からのお問合せ先〉

早稲田アカデミーPR 事務局 株式会社ブレインズ・カンパニー

TEL: 03-3568-3844 FAX: 03-3568-3838 Mail: waseda-ac_pr@pjbc.co.jp

担当：正田・林田・山田